

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

おはようございます。黒岩幸生でございます。一般質問も3日目になりますと、いろんなところが重なり合って、非常にどうしようかなと思う問題もございます。しかし、原則はお互い改革するため執行部に質問しているわけでございますので、重なるということはいいことなんです。非常にその主張が重なっていくというのは大変うれしいんです。けれども、中には全く反対の主張をされているということで、きのうは北方の町民の皆さんと何人か会ったんですけれども、非常に神経を逆なですると、そういう質問もあったわけでございます。やっぱり一般質問というのは、皆さんは武雄市というコップに、一般質問という場に水をつぎ注ぐというような質問がいいんだと思います。コップを揺すぶって、水をこぼして何になるかと、ぜひとも考えていただきたい。無理ですかね。

一般質問を始めたいと思います。（全般モニター使用）

皆さん、「日経ビジネス」（現物を示す）で見られた方、おられますか。この中に「次代を創る100人」、世界から100人なんです。武雄市からじゃないですからね。これは、第1番目にこういうふう書いてあるんですね。「次代」てこの字ですけどね、次の代を創る、「次代を創る100人」ということを書いてございます。この1ページ目に、第一人者は何といてもこの方ですね。これは似とうごたるですね。ああ、聞こえたですかね。いやいや、孫正義さん、ソフトバンクの社長ですね。第1番目ですよ。次に見てみてびっくり、14番目、ここのところですよ。我々の武雄市の市長が載っておる、14番目。世界の100人の中ですよ、14番目ですね。これは最初言い忘れましたけれども、改革者、物事を改革しているということで紹介をされております。そして、その後にと言ったら怒られますかね、19番目、大阪の橋下市長さんが載っておられます。さらには、今度ヒーローという中で、これ私、間違えた。内村航平選手ですね。逆さまじゃなかったですよ。体操選手やけん逆さまなんです。さらには、権力者としてロシアのプーチン氏とアメリカのオバマ氏が載っていますね。そういう中に100人が載っているわけでございますけれども、この「日経ビジネス」に改革者と市長さんが紹介されているわけでございますけれども、このことに対してどのような感想をお持ちか、まず最初の質問といたします。よろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

実感はゼロなんです。というのは、私は一介の首長です。人口5万1,000人の皆さんたちから選んでいただいた一介の首長ですし、橋下さんとか、プーチンとか、大きいところの人じゃありませんので、本当に一地方自治体の長というふうな認識しか持っていないんです。ですが、ここに取り上げていただいたのは非常に名誉なことだと思っております。これは私だけじゃなくて、武雄市民の名誉だと思っております。選んでくださった武雄市民の皆さん

たちに対する、これは荣誉だと思っています。

ただ1点、これは、私は黒岩幸生議員さんを尊敬していますけれども、病院問題のときに、これは本当に学びました。山口昌宏議員さんからも学びましたけれども、やっぱり自分のためじゃなくて、人様のために行うと。目に見えない方であるとか、目の前にいる方がどうやったら幸せになっていただくかということはずっと考えています。ですので、私はリコールも食らいました。住民監査請求というわけのわからんものも食らいました。あるいは、今訴訟も21億円がダンプングして9億円ぐらいになっていますけれども、そういうさまざまな誹謗中傷もいただいています。ですが、もう全然、全く気にならない。というのは、そこに目の前にあるのが市民の皆さんたち、広く言えば地域の所得向上を含むとする市民価値の向上しかありませんので、むしろそういうわけのわからん誹謗中傷は、乾布摩擦、皮膚感覚を鍛えるという意味でね、それは非常にありがたいと思っていますし、ただし、その誹謗中傷の中にもすごいいい意見もあるんですよ。これについては柔軟に取り入れていくということを考えています。まさか「日経ビジネス」で評価をされる、しかも、頼んでもいませんけど、「AERA」で「日本を立て直す100人」にも選ばれたということ、それは日本を立て直す前に、おまえの性格を立て直せというふうに言われました。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

性格は直さなくていいと思うんですね。いいと思うんですよ。今の性格だからできたことと思うんですから、考え方の違いですけどね。

ただ、市長に言いたいのは、もしそういうことであれば、例えばパソコン導入、これも苦勞しながら吉川委員長の中で決めたわけですよ。私は執行部がずらりとみんな持ってくると期待しとったですね。議会はそれぞれ個人ですので自由ですが、ここは市長が一口言えば皆持ってくると思います。残念でたまらんのは、誰と言いませんけど、前回、部長さんがモニターできれいに説明していただいた。それは市民のためなんですね。我々もわかりやすいけど、そういうことをしていただきたい。そのためにやっぱり持ってくるということをしなければ、副市長さん、教育長さん、あなたたちが持ってこんぎ、やっぱり後ろんにきは持ってくるか。昼休みからいいじゃないですか、今度次のとき、全部持ってきてください。そう思うんですね。まだ配線してなかけんね、それはああばってん、やっぱりやってください。

それは先ほど聞いていて思った。蘭学館の問題ですよ。話は横に行きますけれども、蘭学館の問題、市長さん、一生懸命だと思う。真面目ですよ。

〔市長「はい」〕

一生懸命書類を見て言いよんさった。見えんとですよ。私、目も悪かですけどね。きのう使ったモニターを使っていたら、ここに何を持ってくると、市民の皆さんがわかると

思うんですね。ぜひともお願いしたいと思います。

今回、私は6件について質問をしたいと思います。

まず、市長の政治哲学ですね。普通、政治姿勢で言いんさあですよ。そいどんが、私は市長さんにね、先生のふりして、おい、姿勢を正せという話じゃありませんので、市長さんの政治哲学ということで聞いていきたいと思います。

それから、IT行政推進についてでございます。これ毎回言っておりますけれども、3D検索の実用化ですね。実践に向けてやっていくという質問でございます。

シェアハウスについて、この問題につきましても、今まで答弁の中で起業家はかなりここに注目しているんですね。今、武雄が注目されています。ぜひともこの建設に向かってやっていただきたい。

交通安全対策については、先ほど松尾陽輔議員が言われましたけれども、少しだけ目線が違うところで話をしてみたいと思います。

5番目はスポーツ中心のまちづくり、スポーツ中心ということはスポーツマンシップですね。よどんだと言いませんけれども、何とか武雄市がぼっと明るい雰囲気にはならないものかということで、半年以上このことを言っておりますけれども、ぜひともスポーツ中心のまちづくりをしていただきたい。

それから、6番目は放射能問題についてでございます。今の訓練状態では、武雄市民を放射能の被曝から守ることはできないという主張を1年近く続けておりますけれども、今回も続けたいと思います。

これ、市長さんがこの「日経ビジネス」に載った背景でございますけれども、実は武雄市立図書館の問題が書いてあつたんですね。ここにCCC指定管理者、そしてスターバックスを入れた、このことが「日経ビジネス」に載ったんですね。これイメージ図と書いておりますけれども、本来は、これだけすばらしい表紙ですので、これを入れたかった。これはできないんですね。だから、私は下手ですけれども、要は「日経ビジネス」の中でここですね、「次代を創る100人」ということでございますけれども、中身的にはこのように書いてありますね。「次代を創る100人」、この下がすばらしいんですけれども、「我々は、絡みつく鎖を引き裂き、まだ見ぬ未来へと導いてくれる先導者を求めている」、こういう書き方の100人なんですよ。これに選ばれているんですね。これは市長さんですね。写真を変えました。この中のものをもらうわけいきませんのでね。これ市長さんの顔、やっぱりよか顔していますね。アップしますと、もっとよかですね。笑顔のよかです。この顔が似合うですよ。

この中に実はこういうふうにかかれてる。「樋渡啓祐さんを見ていると、本当にタブーがないんだと思う。公立図書館にスターバックスを誘致」、これからのことですが、
「ゆったりした空間でコーヒーを飲みながら本が読めれば、それにこしたことはない」、
「ゆったりした空間でコーヒーを飲みながら本が読めれば、それにこしたことはない」とお

っしやっているんですね。陸前高田の市長さんはこのようにおっしやっている。

ちょっと横道にそれますが、どうということだったかということですが、ここ武雄市立図書館ですね。ここに図書館とコーヒーということでスターバックスだと、この話が6月議会でけんけんごうごうやったわけですが、CCCプラススターバックス、このことが本に紹介されているんですね。

振り返ってみますけれども、5月4日だったですね、武雄市が図書館委託を計画、市長さんが合意をして決めてきたんですね。このことは後で触れますけれども、それはCCC、つまりTSUTAYAを運営している会社を連れてきた。そして市長さんが一番気に入られたと思うんですが、年中無休、開館4時間延長、利用カードはTカードを利用、このTカードもめますけどね。このことですね。年中無休、開館4時間延長、Tカード、Tポイントがもらえますという話ですね。さらに、費用効果1億2,200万円ですよ。きのうやったですか、おとといやったですか、1,000万円と言った人もいますけれども、年中無休、4時間延長して、さらに費用が今より安いわけですから、上、下を比べたら1億2,200万円なんですね。

〔市長「そうです」〕

このことを見た佐賀市の方が、うちを見たときね、うちもぜひ直営でしてください、佐賀市は言われて、今検討されていると思うんですね。これ皆さん注目しておいていいと思います。1億2,200万円余計出せばできますけれども、そのところなんですね。そういうすばらしい恩恵をこうむるということですね。これが我々の賛成論。

一方、これこの前の9月定例議会、これ私ですね。ちかっと毛の薄うないよるばってんが、これが4つですね。大体4本の柱で6月議会で反対をされたんですよ。それをモニターができたために、いろんなことが詳しくここで説明されますので、9月議会で説明した様子ですね。

まず、個人情報漏えいする、これはちゃんと個人情報保護審議会ですか、弁護士さんは松尾弁護士さんやったですか、問題ないとおっしやった。この中で個人情報というのは、先ほど言いましたTポイント、きのう少し市長さんの説明と違ったと思う。私が思うのは分析装置ですね、嗜好調査、例えば、黒岩幸生が放射能の本を借りていったというときに、放射能の新冊が出たときには教えてくれる、アマゾンもやっていますよね。ほとんどの人はみんな助かるて言いんさっです。図書館に探しに行かなくていいんだ。しかし、それでも個人情報が怖いのであれば入らなければいいだけの話なんですね。それをここで言った。

それから、ここが全く、突然の合意発表は認められないとおっしやった。市長は合意をしてこんぎ、議会にはまずかけられん。合意をして、そして教育委員会に話をして、教育委員会がだめだと言われたらできないかもわかりません。その前、ちゃんとそろえたのを議会に持ってくる。議会がよく聞くことですが、そがん言うばってんが、市民は納得しとら

んやろうもんと、こうなんです。違くて。ここにおる26人こそが市民なんです。それが市民の代表ですよ。

〔市長「そうです」〕

だから私、前、市民の小使、市民の御用聞きをしまして、大分批判も浴びました。うちの同僚の松尾議員も一緒のお考えですけど、私は市民の代弁者、888人の代表ですね。票をそれだけいただきましたのでね。ということですね。だから、突然の合意発表じゃない。

このときは市営住宅の話をしましたね。市営住宅というのは、議会にかける状態というのは、指名競争入札をして、落札者を決めて、仮契約をして、印紙を打って、それを消印したのを議会に持ってくるんですよ。これこそ、これに触れますよね。それだけちゃんとしたものを執行部として議会に提出する義務がある。だから、突然の合意発表を認めないということはないんですね。もし中身が悪ければ議会で否決すればいいだけですから。

それから、条例を改正する必要はない。これもややこしかった。9月定例会で、ここで説明したんですけども、それでもやっぱり一般の人はわからんとやけんね。もう一回簡単に言いますが、条例改正と書いてありますけれども、運用するための条項の追加やったですよ。しかも、体育施設については18年の3月1日に改正してあったけれども、この図書館は条項がなかった。14、15、16ですか、だから、それを追加しただけなんです。それを条例改正という形で出たんですね。だから、当然しなければならぬことをしていなかった。18年3月1日、それを書いただけなんです。

最もびっくりしたのがこれですよ。文部科学大臣は反対している。所管の大臣ですよ。それは、少数意見報告書が出たんですけども、ここに、福祉文教常任委員の平野さん、そして石丸議員さん、さんづけせじよかね。2人が書いとるんですね。

〔市長「うん」〕

そして、みんな一緒ですけども、ここに反対意見と書いてありますけれども、こそくにも1カ所変えているんですよ。まあ、いいです。これは、文部科学大臣は当然ですけども、推進をしておったですね。

〔市長「そうです」〕

しかし、実績が少ないとおっしゃる。なぜ少ないか。これずっとここに書いてあつですよ。なぜ少ないか。それは、指定管理者制度の導入は長期的視野に立った運営が、これきれいに書いてあつですよ。ここから、これは文部科学大臣はなじまないというか、難しいとおっしゃったんですね。こうおっしゃった。これを平野議員と石丸議員は入れかえたんですよ。入れかえたらどうなりますか、市長さん。

〔市長「難しいからなじまない」〕

難しくなる、図書館にはなじまない。文部科学大臣がなじまないと言うたというんですよ。

〔市長「反対じゃないですか」〕

だから、文部科学大臣が反対をしている。だから、我々は反対だとおっしゃった。こういうことがまかり通っている。

しかし、このモニターを使うことによって、これを口頭で言ったら無理ですよ。モニターがあるからこれができるんですね。モニターに反対の人もいますけどね、なぜかわかりません。

これは先ほど言いました年中無休、開館4時間延長、Tカードが利用できる、必要ない人はTポイントをもらわなくていい。費用効果が1億2,200万円、この1億円を使ってね、15年ですから、1億円として15億円あるんですよ。これが我々の賛成の理由なんですね。

横道にそれましたけれども、「ゆったりした空間でコーヒーを飲みながら本が読めれば、それにこしたことはない」とおっしゃったんですね。

ただ、こここのところ市長さんね、ここが主張が違うところ。ただ、従来の常識では公立図書館に民間企業を入れるなどということはありませんと陸前高田市長がおっしゃった。そしてさらには、その常識に直面して、普通は——いや、市長が常識ないと言いやんとですよ。普通は来ないでしょうと、ここ、諦めるというんですね。常識が邪魔して、常識あるとですよ。普通は諦める。しかし、樋渡さんは、利用者にメリットがあれば、先ほど言われましたね、市民のためと、市政は市民ですよと言われた。ここだ。ひるまずに改革を押し進めていかれる。前例がない中で、最初にテープを切るのは勇気が要る。

病院問題ですけれども、うちが病院問題をしよるころ、どこと言いません。言えといたら言ってもいいんですけれども、ある2つの自治体を知っているんですね。ほかの自治体、うちも民営化するとある市がおっしゃっていたんですよ。1つは町かな。おっしゃっていた。近くですよ。市長がリコールを食らってからもうぱたっととまった。

〔市長「そうです」〕

知っておるですかね。

〔市長「知っています」〕

だから、前例がない中、テープを切るのは勇気が要る。先ほど子ども手当かれこれでね、つまらなくて、文部科学省、いろいろ言いやんさったですね。あのとき、私は思ったんですね。市長が上におって、文部科学省とか、教育とか使えばいろいろ言わんでいい。市長がつくった案に従えというふうに行くべきですよ。上から言うとおりましたら、補助金をもらいに行ったらやられますから、やっぱり武雄が一番上に立って、ワンマンになれということじゃないですよ。そういう気持ちで持っていくことが、前例がない中で、最初にテープを切ることは難しい、勇気が要る。しかし、行政には住民目線の当たり前の発想が不足しているて、当たり前の発想の。樋渡さんのような感覚を持つ首長がふえていけば日本は変わるて。行政には住民目線の当たり前の発想が不足しておるといいます。樋渡さんのような感覚を持つ首長

がふえていけば日本は変わると、こうおっしゃったんですね。

タブーをなくし、お伺いですが、住民目線の当たり前の発想、これはどこから生まれてくるかと思うんですね。先ほど言われたんですね、住民目線、どこにあるのか。よければお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の趣味は武雄市、そして私の特技は戸別訪問です。ですので、そういう現場でやっぱり市民の皆さんの悩みであるとか、苦しみであるとか、お困りの点をできるだけ政策に入れていく。そして、次の原点が私はこの議会です。議会です。さまざまな議論があって、それで、あっ、これはいいなと、先ほど松尾陽輔議員さんのときも言いました。朝長議員さんのときも言いました。上田議員さんのときも言いました。いいなと思うものについては、それは柔軟に取り入れて修正をしていくということ。ですので、現場があって議会があって、そしてこれは本当に最後一人になったときに、決めて提案するという意味で決めるのは私ですので、最後一人になったときに、選択肢があった場合に、どっちが困難かなと思います。どっちが困難かな。だから、病院問題もどっちが困難かなと思ったら、今のままが楽だったんですよ。CCCと図書館もそうです。蘭学館の話もそうです。今のままが楽なんですよ。ですが、やっぱり選択をしていったときに、苦しいほうを選べと、私に直接おっしゃっていただいたのが、かみそり官房長官で知られた後藤田正晴さんです。後藤田正晴さんにお伺いを立てたときに、長官はどうやってそれを選ぶんでしょうかと聞いたときに、私は苦しいほうを選びますと。それを同じことをおっしゃったのが、佐賀県が生んだ古川貞二郎元官房副長官です。ですので、その教えに従って、私は最後結論をするときはそのようにしています。そうした場合に、余り外れはないというふうに思います。

そして、この議会でもありますけれども、わけのわからん反対にはもう耳をかさない。もう聞くとぐあい悪くなっていますので、そのときは耳なし芳一になります。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長と今のところ少し違うところがあるのは、苦しいと思うことであっても、市民のためと自分が信じていたら突き進むということですね。苦しいほうを選ぶだけではちょっと誤解を招きますけれども、市民のために立っておったらね、恐ろしいことない。そのため、選挙前、私、非難に遭いましたよ。何千枚、何万枚のビラを書かれてね。

〔市長「そうそう」〕

和白さんから家建ててもろうたて。

〔市長「いや、僕も言われたですよ」〕

そうですか。家建てるどころか、選挙に1回でん加勢も来やらんやった。建ててもろうたとは、はっきり言いますけれども、本山さんから建ててもろうた。本山建築です。大工さんはヤマトさんでしょう、大和さんですね。隣の土地を高く買ってもらったんですよ。私、養子だから金を使うわけいかんけんですね。まあ、いいです。

これは、垂れ幕じゃなかったばってんが、これ玄関前の、言葉ええとこ言いよったばってんね、何やったかね。垂れ幕ですね。いっぱいあるですね。ここに、「歓迎 行政視察」とずるっと書いてあつです。もうすごかですね。ここの前で、ほとんどの研修の方は写真を撮っていかれるそうですね。私たちこういうところに行ったことないし、しょっちゅう行ってもね、ここの前で写真を撮ること余りありません。

さらに、ここのところですけども、県議会まで来とんさあですね。

〔市長「そうそう」〕

県議会まで来ている。これは議会に対してですよ。市長のところもこれくらい来よつとでしょう。というのは――掲示が遅かったですね。ごめんなさい。

これ、議会事務局の掲示板ですよ。11月ごろずらっと書いてありますね。すごか。調べてみたんですね。5月から10月まで75件の608人、1カ月100人て思うごたるばってんが、違うとですね。つまり6月、9月は断ります。実質は4カ月。そしたら、1カ月150人来よる。それも、この近場は別ですけども、遠くは5人以上かな。

〔市長「はい」〕

1泊武雄でするのを条件ですね。それでもこれだけ来ておられるんですね。

それで、実は来年1月にIT行政推進特別委員会、北海道の大学に研修に行くことに決めました。雪の日にはばかじゃなかかと言われるばってんが、暇がないとですね。このときしかなかった。ということで言ったところが、北海道の教育委員会が大歓迎だった。話題になっておった。佐賀県の武雄から来らすばいて――いや、来らすばいて言いんさらんばってんね、武雄から来る、大歓迎です。これはびっくりした。改めて思うたんですけど、やっぱり市長の影響力のすごさですよ。佐賀県の武雄市、わあという話ですよ。また、ユーストリームというですか、流れていることありましようけれども、結構北海道からの研修も多いですもんね。雪の中、行きますけれども、物すごうすごかったということを紹介しておきます。

そこで、研修目的はフェイスブックが一番多いということを事務局に聞きました。それで、具体的内容、余り長う言われても困るんですけども、どういうところが来られたのか、答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

(モニター使用) モニターを変えてほしいんですけども、まず、数がこういうふうになっています。私が着任したのが平成18年ですので、その前からすると10倍から20倍に膨れ上がっています。ありがたいことだと思っています。

視察のテーマ件数なんですけど、フェイスブック、F & B良品が多くて、やっぱり図書館指定管理者が多い。イノシシだったり、あと、ここには出てこないんですけど、議会をユー 스트リームで流しています。特に黒岩幸生議員さんの場合は2,000人の方々が見られていますので、こういう議会の質問のあり方とか、答弁のあり方についてよく聞かれますので、そういう意味で言うと、もう武雄市議会には本当に感謝をしたいと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

次は、IT行政推進についてでございます。

ITを駆使して行政の刷新をということですって来ております。つまり、3D検索ですね。ちょっともう1年ぐらい言いよるですかね。システムの実現に向けてやっという話でございます。

これは11月17日の佐賀新聞ですね。私は佐賀新聞しか読みませんので、市長さんとちょっと違いますよね。ここで、「行政文書をウェブ公開へ」と書いてありましたね。行政文書をウェブに公開するんだ。それは、請求不要、誰でも閲覧できるんですね。どこからでもいけるといことですね、クモの巣ですからね。武雄市構想、来年度から実施、それを日本フェイスブック学会で樋渡会長が発表したと載っていますね。さらには、公開される文書はもちろん開示できるものだけ、個人情報など禁止されている文書は省きますよ、当たり前ですね。開示する文書は全てクラウドに保管をしていきます。今までの状況の中で、紙文書であれば、東日本大震災では行政文書は流出したんですね。そうでしょう。流れたんですね。破損した。

〔市長「そうです」〕

我々会派は沖縄に行ってきました。つまり、沖縄がサーバーを預かる場所は一番いい。なぜか。本土と離れている。だから、同時に災害が起こらない。そしてまた沖縄は地震が少ないそうですね。そういうことであつたんですね。

その後の新聞に2種類の文書を別の場所に保管すると書いてございましたけれども、どのようなことを意味するのか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

1つの場所に保管をしておく、それが絶対にアウトになるということになります。ちょ

っとごめんなさい。2種類の文書というのは、これ多分保管の場所を2つ以上というふうに申し上げたつもりで、これは私の言い間違いだと思うんですが、要は、もう1つ、今までのデータというのは、武雄市全体でいっても、もうびっくりしたんですけれども、今、もう5万円ぐらいのハードディスクに入るぐらいなんです。基本的には映像がありませんし、動画がありませんので、ですので、これはちゃんと手元に保管をしておく。あと何か所か雲の上のクラウドに保管をします。先ほど議員が御指摘のとおり、個人情報の文書であるとか、そういう相手がある話であるとか、あるいは著作権に関する話というのは、漏えいの危険性がないわけじゃありませんので、それについてはそういうふうにクラウド、あるいはサーバーに置いておくというのは基本的には考えておりませんので、そこはぜひ御安心をしていただきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

いや、御安心じゃなくて、ちょっとがっかりしたんですけれども、公開文書を2つの場所にとすることは今わかりました。

私が思ったのは、やはりこれから公開できない部分というですかね、それも絶対できない部分と、公開してほしいけれども、することによって物すごく便利になる部分と分かれてくるんですね。だから、財産など絶対公開できない分は、例えば個人の貸し金庫、ITの貸し金庫と私言っているんですけれども、ぜひそれをつくってくれということを出崎さんにも言っていますけど、貸し金庫に置いておく。

そして中間というのは、例えば、私が医療カードですね、これは個人情報ですよ。しかし、これを出すことによって、どこかで災害、私が造影剤に弱い。頭を打ってぶっ倒れたとき、誰も教えてくれない。頭ですから、造影剤を打ったら心臓がとまるんですね。しかし、電子カルテに結びつけば直ちに助かるんですよ。そういう分野に今来ているんですよ。今後でいいですけれども、だから、公開はしないけれども、万々が一破られるかわかりませんよ。交通事故と一緒にですよ。交通事故が怖いから車に乗らない人はいないわけですからね。リスクを背負ってでもある一定の公開、そういう文書の保管というのは今後要と思うんですね。そういう意味だと思いましたがけれども、それだけ今後検討して——ああ、そうですか。答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それこそ御本人の同意だと思うんですよ。同意があつて、そういう危険性がありますということ踏まえた上で、車はもう議員おっしゃるとおりですもんね。ですので、そういった

リスクもありますということも踏まえて、同意をしていただいた方々に対して、特に僕は医療関係、これ僕も山崎さんと相談していますけれども、そういったことはもう絶対必要だと思っております。

ただ、このときの保管の場がね、多分そういう保管の場とは違うことになろうかとは思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

以前、ここで防災背番号、任意制でと言ったことがありますね。希望者だけでいいんですよ。さっき言った分析装置も一緒。便利になれば怖い面もある。それにいかん人、うちの姉、自動車は乗りませんからね。事故が怖いから、免許を持っていません。そういう人も中にはいるんですよ。それはそれでいい。しかし、大多数が好むほうに向かっていかなければ進んでいけないということですね。先ほど公会計問題で市長さん、ベテランの会計のプロがね、松尾議員がおっしゃっていたんですね。あのとき私、全くわからん。つくづく聞きよったとは、今まで自治体がもうけるという考えしていなかった。だから、あれでいいですよ。しかし、これからは自治体であっても、もうけるという言葉は悪いかしれん。やっぱりもうけにゃいかんですよ。そうすることによって、例えば国保にも金ば入れられるわけですよ。いろんなところに公共事業、公共事業だけじゃなくて、市民の負担が軽くなるんですね。だから、ぜひともそういう考えから、これからもうける、合理化だけじゃなくて、もうける話をつくっていかんやいかんと思うんですね。

それでは、実は先日、三井業際研究所の方がここに来られたんですね。私と前議長の牟田議員さんとここでお会いした。そこにずらっと座られて、そうそうたるメンバーですよ。約2時間いろいろやりとりをここでいたしました。三井業際、この業際というのは皆さん御存じでしょうけれども、1つの分野でなく、幾つかの事業分野にわたることなんですよというんですね。これを研究するところなんですね。日本ユニシス総合技術研究所とか、関連部、来られました。また、どういうことですかと聞いたら、フェイスブックの活用についての質問なんですね。つまり、午前中は市長さんとこれについて物すごい深いやりとりがあったと思うんですよ。やりとりして、午後に私と、何で私が呼ばれたかわからんですけどね。私は、いつも言うように、計算機の組み立て方はわかりません。しかし、計算機は使いきるですよ。そういうことで対応したんですけども、この三井業際研究所というのはすごいグループですけども、まず、三井グループ、三井不動産、ファイナンス、みんな入っているんですね。三井グループにおいて異業種間の業際分野における知識集団としての機能を果たすことを目的としているんですね。そして事業として意見の発表、政策の提言・建議、情報の収集・管理、提供、調査・研究開発と事業化促進、これがすごいところなんですよ。後でシェ

アハウスは言いますけれども、こういう人たちが市長のところに来るといっただけでも全く変わったところですね。国内外の諸機関と交流、この31社というのは、三井グループ、日本ユニシス、IHI、イビデン、王子製紙、太平洋セメント、トヨタ自動車、東レ、東芝、日本製粉、富士フィルム、フジクラ、超一流ですよ。そういう方たちが研究されているところですけども、これはIT行政推進特別委員会で総務省の川島先生から習ったことをその中で話をしたんですね。

なぜこの話になったかといいますと、実はフェイスブックの講座について聞かれた。非常にフェイスブックによって情報が入ってくるのが早くなった。対応も早かったために、どこやった、防災ですね、カメラで撮って、武雄市に送って、直ちに通行どめされた話、以前ここで紹介されたですね。

その反面、どうしてもインは早くなってくるけれども、出す、アウトのほうが遅いですよという話をここで私したんです。そのとき言ったことですけども、それは、総務省の川島先生からIT行政推進特別委員会で習ったことをここで言ったんですね。つまり、入ってくる情報、そして住民、企業への便益、つまりアウトですね。そう考えますと、武雄市役所の仕事というのは情報処理ですね。つまり、災害対応関連職員さんや災害対策本部を大きかどを立てたり、あるいはもっと大きかどは、災害対応の予算をつけたり、災害発生を通報したり、地域防災計画、あるいは災害対応であったり、いろんなことをしなければならぬ。つまり、行政の仕事は情報処理そのものですよということを川島先生がおっしゃった話をここでしたんですね。なぜこれをしたかといいますと、これずっと今までこの議会で三、四回になりますかね、もう1年近くなります。話してきたんですけども、この3D検索化の話をしたんですね。つまり、25掛け5というのは、暗算であっても、そろばんであっても、頭の中、あるいは手先で比較検討しながら選別して答えを出すんですよ。計算機は、大人であっても、子どもであっても、誰であっても、25掛け5と入れさえすれば機械が判断して答えを出すんですね。これが3D検索ですという話をここでしたんですよ。そしたら、それを聞きながら、普通はそれは何かと言われるですよ。期待しておったんですけども、何も言いんさん。みんな、だからどうしたんかという顔ですよ。

ちょっと困りながら、次の話をしたのが、ちょっとグロテスクですけど、こういう話なんです。お医者さんの話をしたんですね。心臓の話をしましたけど、ちょっと手に入りませんでしたので、これ図はイメージ図ですね。つまり、3D表示は病院で進んでいるというわけですね。つまり、立体的表示は進んでいますよ。どういうことかといいますと、ここは脾臓ですね。めったに聞かんです。脾臓、ここにありますね。せっかくですので、脾臓というのは、血中の異物や老廃物を破壊する場所なんですよということですね。これいいですけども、このところを見るときに、これ本当は平面ですよ、二次元の世界ですから。しかし、これ斜め、こっち前から見たぎ、ここから見たところですね。これは今度は横から見た。今

度は後ろから見た。きれいにこれを手にとって、一遍に立体的に透き通ったように見られるんですね。だから、どの骨をどうすれば治療されるとか、いろんなことで今利用されているんですね。この話もしました。そしたら、先ほどと変わらん。では、何をするのか。なぜ3D検索が必要かという顔ですよ。そこで、私、行き詰まった。それ持っていなかった。いきなり行政文書に飛びきらんやった。

その後、フェイスブック学会がここであっていたんですね。あったときに、会場づくりのとき、ここを見たんですね。どがんとぼつくってあるかにやあと。そしたら、3番目やったと思いますけど、行政のプラットフォーム化と書いてあった。私は講義を受けておりませんので、中身は定かではありません。この行政のプラットフォームというたことに私自身ががーんと頭を打たれた。感じたんですね。プラットフォーム、出発点。

これは、東京駅から家に帰るとき、東京駅のプラットフォームに立ちます。そして公共交通網、公共機関を聞いて、武雄まで帰ってきて、そしてその後は自家用なりタクシーなり、目的地に帰るという考え方ですね。つまり、東京、羽田、福岡、博多、武雄というふうに交通機関でやっていきますね。これは交通網の中の一つのプログラムですね。それから、武雄から家までは歩いて帰ってでんよか、どがんして帰ってでんよかですね。つまり、オリジナルですね。これで人と物を運ぶんですね。

さっきの行政のプラットフォーム化で思ったのがここですよ、市長さん、ここ、余り出ておらん。ここですね。次のところですよ。文書情報をプラットフォームで考えたんです。今、みんな年賀はがきばつくろうとしよるですが、議員は出されんか。東京駅ですね、こここのところがはがきに置きかえるですね。交通機関はパソコンになりますね。このプログラムというのはアプリケーションソフトでしょう、アプリ。言うてよかかにや。「筆まめ」とか、いろいろありますね。それば使わんばいかん。それだけじゃいかんですね。そこに自分で住所録を入れたり、バージョンアップしていくですね。一緒のことなんですよ。それを行政のプラットフォーム化と思ったんですね。これをつくっていけば、これF&Bと一緒になんですよ。

総合窓口、これ私はもう25年になる、もっと前になるかわかりませんが、北方町議会議員をしていたときに、松本町長さんに、総合窓口をつくってくれんやろうかと。なぜなら、町民の皆さん方は、建設課は向こう、教育委員会は上とかね、もう町民がしょっちゅう回らんばいかん。だから、1カ所で話ができないかという総合窓口を設けてほしいと当時言った。町長さんが言われるには、いや、そがん気のきいたとはおらんけん、されんて言いんかった。ワンストップ行政、これ今県が言いよるとですかね。なるだけ県民の皆さん方がたらい回しされんでよかごとせろ。これとプラットフォームと一緒にの考えに立てるんですね。立ったんですけれども。

これは、住民要望を例えた場合、それと市役所との関係ですね。まず窓口、窓口から真っすぐ行かれるかわかりませんが、それから、こう行きますよね。係に行って、係長に

行って、課長に行って、部長に行って、副市長に行って、市長に行くんですね。市長さん、副市長さん、こういうふうになるでしょう。これを、理論の部門で聞いてくださいね。現実には置きかえたら、市長腹かいたらいかんけんね。理論の部門ですよ。これを、こう行くとすれば、市長さんが全てを知っておるとしますね。例えば、トイレの洗剤が切れた。その洗剤はどこの店に売っているというのを知っているとしますね。そうすれば、市長さんのところだけでみんな終わると、済むとですね。これが総合窓口。

じゃ、これをどうするかという話が今までずうっとしてきたところですけども、3D検索システムを使っていけば、このことができるというのがこの行政のプラットフォーム化につながったんです、F&Bとですね。まず、総合窓口、ワンストップ行政、1カ所という、この発想は、今の発想じゃなくていいですけども、1カ所で済むという話ができればということに対してどのように思われるか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すごくいいなと思います。特に今度、庁舎の研究に当たっては、これまだ事務方には全然相談していませんがね、アップルストアがどうなっているかというのと、お客さんが入ったときに、定員さんがぱっと寄ってくるんですね。今、我々がどうなっているか、この市役所がどうなっているかというのと、例えば戸籍関係とか福祉関係だったらばらばらなんですよ。ですので、今度の新しい庁舎では、例えば、市民の方がお越しいただいたときに、そこに座っていただくといったときに、そこに1人がやってきて御用を伺って、そこでしばらく待ってください。レモングラスティーを出します。待っていただいて、そこで全部解決、その場で解決をするという、それこそ住民目線のワンストップサービスをしていきたいと。本当に今でも実はできるんですよ。できるんですが、この役所の構造上、そこは無理なんですね。ですので、今度の庁舎の中に当たっては、そういう市民本位の、住民本位の、座った時点で、そこでもう解決できるというような話をする。

ただし、例えば消費者相談とか、そういうのは別ですよ。それは目的に沿ってお越しただくということで、きちんと張り張りがつく、ああ、来たら楽ちんだなと思っていただくようにすると。黒岩議員がおっしゃるように、今、ITの世界でも、ITの話を駆使すれば、実務でもそれはできるんですよ。あとはもうやるかやらないかというだけだと思うというのが私の認識であります。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、市長さんおっしゃるとおり、先ほどの話も、東京駅から自宅まで歩いて帰ってもいい

とですよ。しかし、いろんなものを利用して、これと一緒に発想なんですよ。前、合併問題がいろいろあるときに、嬉野の谷口市長さんとお会いして話をしたときに、あの人はこうおっしゃった。形は違いましたがね、当時はあの人に聞いたとき、私は総合支所でいいと思うとおっしゃったんですよ。どんなに離れていても、2階と3階が分かれているのと一緒のように、場所が離れても距離はないんだという話をされたんですよ。まさにその発想につながっていくと思います。

これクリップですよ。挟むやつですよ。つまり、お医者さん、看護師さん、医療事務、受付、いろんなことを挟んでいる状態ですよ。クリップ、一緒に挟むんですよ。それで、お医者さん、受付、医療事務、わかるように色を変えたんですよ。色を変えてクリップでとめてみました。しわを伸ばしとぎよかったばってんね。つまり、お医者さんというのは、自分のノートのようにITを使いたい、患者さんの全てがよくわかる簡単なメモが欲しいと、こうおっしゃる。一方、看護師さんは患者様の情報をさっと見たい。しかし、パソコンに向かうのは今なかなか難しかねという悩みですよ。受付は受付として、カルテの検索、生年月日から何から、病状から、何か検索するときは大変だということですよ。もちろん医療事務においてもレセプトの作業は大変だという、いろんな思いをもみながら、このみんなの意見をクリップした姿ですよ。

これをばらばらにしたんですよ。ちょっと離れた。お医者さんのメモの中にはいろんな人の病状が、これ1枚ですけどね、ノートの中にいろんな人の名前、Aさん、Bさん、いろんなことが書いてありますね。看護師さんのメモの中にもいろんな検査など書いてありますね。医療事務についてもレセプト、いろいろ書いてあります。あるいは受付についても、生年月日、病状、いろんなことが書いてありますね。これを例えばXさんという方は、お医者さんのここに書いてある。看護師さんはここに書いてある。そして医療事務ではここに書いてあって、受付がここに書いてある。これをクリップで結べば、自由にお互い看護師さんが、お医者さんも見えるし、医療事務もみんな見えるという発想なんですよ。同じくMさん、Mさんもここに書いてありますよ。看護師さんはここですよ。医療事務はここですよ。そして、ここですよというふうになるんですよ。こういうふうになります。そして、今度はBさん、市長さん、上の字を見て何も思わんですか。今回、取りやめましたけどね、BMXね。

〔市長「ああ」〕

今回、ちょっと遊びです。

Bさんのものと同じくずるっと来るんですよ。今のと上手かでしょう。苦労したんですよ。こういうことでね、全体が輪でつながるというんです、クリップで。ただの鉄ですけど、考え方ですよ。これは、医療総合システムのクリップということで既に特許がとられています。統合するんですよ。つまり、先ほどのいろんなメモを、これ高速回線ですよ。これ今言うたクリップですよ。これにぶち込むというんですよ。そうすれば、お医者さん、受付、医

療事務、看護師がここに全部入れれば共通した一つの情報を抜粋することができる。ここに提供、山崎と書いておったですけども、これ山崎先生が I T 行政推進特別委員会に提供してもらった資料です。つまり、クリップを高速回線をつなげば、どこからでも情報がとれるということなんですね。先ほど言いました医学界では 3 D 表示が最大限に利用されております。

そこで、行政分野に取り入れれば飛躍的に前進すると思いますけれども、どのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も山崎さんとよく話をしますけどね、それがやっぱり技術的にも可能だということですので、あとはやるかやらないかの部分だと思います。もし行政でやるとするならば、医療の場合割とやりやすいんですね。例えば、黒岩議員さんが風邪を引く、私が風邪を引くというのは、症例としては風邪というので束ねられるんですけど、行政の場合は、例えば福祉と土木じゃ全然違いますので、やっぱりあるカテゴリーの中でくくるということで、これもしやるにしても、試験的に例えば土木分野とか、そういったところでやる必要があるだろうなというふうには思っております。あとやるかやらないかだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これ5月23日、I T 行政推進特別委員会で山崎先生から御指導をいただいた内容ですけども、行政のためのオートタグシステムということでいただきました。

まず、役所の仕事というのは何が一番多いか。役所の仕事というのは紙のやりとりですね、やりとりで、がん書かすとですね。紙のやりとりが多い、当然ですね。先ほど市長が言われる、対面サービス以外の指示や記録は全て紙ベースで行われている。そしてさらに、契約書、領収書、請求書など全てひもづけ、現物保管しておかなければならないということをおっしゃっているんですね。先ほどのウェブ等の話と全く違うところですけど、これが現状ですよ。そしてさらに、紙、紙、紙でこうして探し回しておってね。

〔市長「そうそう」〕

ここですね、市長さん、自慢するばってん、もろうたとが動くですよ。こう紙を探しよんさつとの。もうとめるのに一苦労した。まだ難しかけんね。動かさずくるわるっけん。こういうことですよ、紙、紙、紙ですよ。これを、全ての紙を高速回線に投げ込むという発想です。そしてみんなでオートタグ、ここんところですけどね、オートタグを育てていく。つまり、3 D 検索ができるタグ打ちをしていくんだと。さらに、そのオートタグが全てをイ

ンデックスする。つまり、インデックスというのは皆さん既に御存じのとおり、目的の情報を探すための索引・指標、これつけておるですね。私は、大体人間にもタグばつけとるです。彼が法律に詳しくとかね、一緒のことですね。そして、さらにはインデックスの木をみんなです。クモ、ウェブね。そして「探さない、訊かない、訪ねない」、「迅速」、「ノーミス」を確立していくんですよと、こうIT行政推進特別委員会で習ったんです。習ったけど、非常に高度過ぎて難し過ぎてですね。私はこればつくろうでちゃ、これは山崎さんがつくらしたとですけども、一般質問つくろうで大体3カ月かかる。そいけん、3カ月かかるという事は、もう12月んとは頭に入よる。こういうのをつくろうと。今度、病院問題を書こうと思う。わかりにくかったけん。何であそこで訴訟するかということね、これを今度やろうと思います。

横に戻りますけれども、「探さない、訊かない、訪ねない」、みんなここで時間を喰いよる。だから、高速回線に投げ込めばね、それで利用できれば、「迅速」、「ノーミス」ができますよということ。つまり、これ私が書いたんですけども、フェイスブックで物すごく早く情報は入ってきます。しかし、それを「探さない、訊かない、訪ねない」ということをしなければだめですよということなんですね。そうすれば、「迅速」、「ノーミス」の確立がします。さらには、的確な情報処理と事務処理ができますよと。

これも当たるかわからんですけども、ある優秀な役所の職員さんですね、半日かけて数字の読み合わせばしよった。山崎先生が「どがん思うですか」と私に言いんさった。私はようわからんけんが、単純に言った。「数字ば重ぬっぎよかろうもん、書いたとば。そいぎ間違いはすぐわかろうもん」で言ったとです。天下の東京大学を出た方ですよ。読み合わせよったです。重ねるぎよかろうもんで話した。山崎さんも「そうですもんね」て言いんさったけん、そいばしやすかとばつくってくいございても言うたですもんね。まあまあ、いいです。

的確な情報処理と事務処理、これ機械でできるんですけども、国や県への申請書、これも自動に選別できる。そうすることが行政文書の文書化、まだ半分しかできない。公開する分しかできないかしれませんけれども、いずれここに向かっていく。そして市役所のペーパーレス化にのっていく。これが一番いいのは、これを機械的に判断できるかなんですね。そうすることが、「迅速&ノーミス」の確立につながる。

次、こここのところ。市長さん。今、F&B検索を持っていますね。非常に好評だと、F&B良品ですか、どんどんネットで広がっている。その検索システムを使ってね、行政文書ものせていくという発想なんですね。つまり、F&Bの検索システム改良で行政文書にも対応できるですか。さっき言うた、できるて言いんさるですよ。このことに対して市長はどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁に入ります前に、防衛省中央指揮所からの情報が入りました。10時26分で、もう情報の総括ということで最終情報になります。12月12日水曜日、北朝鮮西岸から南に向かって1発の人工衛星と称するミサイルが9時49分ごろ発射されたことを確認した。ミサイルは分離し、1つが朝鮮半島西方の洋上、これは予告落下区域内だそうです。もう1つが朝鮮半島南西の洋上、これも予告落下区域内です。そして、もう1つがフィリピン東方の洋上、これも予告落下区域内だそうです。落下したものと推定される。破壊措置の実施はなしということで、これについて、本件については、武雄市のJアラートについては正常に作動したところであり、しかしながら、これは放送区域外ですので、市民の皆様方には防災無線等を通じて放送はしておりません。報告させていただきます。

いずれにしても、北朝鮮のこの行為についてはあってはならないものだと思っておりますので、この場で抗議をさせていただきたいと、このように思っております。

答弁に入りますけれども、検索できると思います。できると思いますし、なるべくあっち行ったり、こっち行ったり検索ばらばらじゃなくて、一つのところでF&Bも検索できる、行政文書も検索できる、グーグルも検索できる、エバーノートも検索できるというようなのをやっぱりつくる必要があるだろう。これをパッケージにして各自治体等にやっぱり売込んでいく必要があるだろうと僕は思っていますし、それには山崎さんのお力が必要だと、このように認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これもIT行政推進特別委員会で習ったんですけれども、現在の災害対応状況ということでございますけれども、それは、電話、ファクス、防災マニュアルということで、これに今一つ使われていますね。フェイスブックで迅速に来るということですね。そして、情報はダブって入ってくるんだということですね。非常に対応に困る。しかも、この通知を見ようとしても警告がないと、いろんな悩みがありますよと、これはIT行政推進特別委員会で習ったところですね。

そこで、例えばある橋の水位が1.5メートルを越えたらということが、今見ていろんな状況を勘案しながら出すんですけれども、ここのところなんですけれども、ここにちゃんと3D検索で、いろんなところへ情報ができるシステムで自動判断すれば、直ちにこれが連絡、通告、ピンポイントに連絡できるんですね。つまり、今までここでしていたのが、3D検索をすることによって、直ちにそういう場合はこうですよ、先ほどJアラートと一緒にですね。防衛省も一緒です。ここに来たときはどうだということをやちゃんと決めておけば、今飛んだからわ

かったんですけれども、この前のときには、何とか〇〇防衛大臣は40分間沈黙しとったですね。機械だったら飛んだになるんですよ。次は方向が見えないになるんですね。しかし人間ですから、見えないから、飛んでいないかな、飛んだかなと悩みよる。それが無いのが機械なんですね。だから、越えたら真っすぐ、ここないとですよ、直ちに次の仕事ができる。防災にが一番役立っとるんですよ、この3D検索ですね。もちろん防衛には一番役立つそうですと余り言われんごたるですね。

そこで、市長にお伺いですが、防災システムをつくり東日本復興支援、防災、のせて、先ほど言われました、それはのせればいいわけですが、仕事をさせればね。あるいは行政文書が破損、流出しているので、修復は必要ですので、そこについても加勢をそれで入れていく。さらには、災害被害状況が刻一刻と変化する様子をつくることのできるんですね。そういう意味合いから、F&Bの検索システムに、先ほど言われましたように、行政分を上乗せして、他の自治体へぜひともつくり上げてから紹介していただきたいと思います。これは質問にしません。先ほど言われましたからね。だから、ちゃんとした実物がなければ、市長が満足するものでなければほかに紹介できませんので、それいいんですよ。だから、そういうのをぜひ足を踏み出してほしい。これで世界が変わりますよ。もしできなかつたら、私、世界一の大ぼら吹きになりますよ。それくらいの代物なんですね。世界が変わりますよ。とにかく、この二次元の世界を三次元でやっていくわけですから、大変な時代なんですね。ぜひともお願いしますね。

シェアハウスについて質問いたしますけれども、さきの質問の中で、9月ですね、武雄市図書館を知的活動拠点にすると言われましたね。その横にシェアハウスをつくったらどうかという話をここでいたしました。実は、唐津のある会社の3代目の社長さんがうちに来られたときの話ですね。その方は、中国の大使とのつき合いがあられる方です。言われたとおり、そして唐津の病院が赤字なので何とかしてくれと言われた。そこで、唐津から壱岐に、あるいは壱岐から博多に回るフェリーで三角形、トライアングルをつくりたい、こうおっしゃったんですね。そしてお客さんをお呼びして検診というんですか、人間ドックですね、それをしてほしい。海を物すごう中国の方は好まれる。やっぱり内地ですからね。だから、フェリーの旅をさせるし、壱岐に連れて行って、福岡で買い物させる。そのときおっしゃったのは、唐津に温泉のなかくて。ぜひとも武雄も入れようねという話ですね。よろしくお願いします。トライアングルは今度はテトラになるんですかね。そのとき言うておきました。うち新病院もありますので、うちの病院もよろしく申し上げますと言ったんですけれども、船会社の方ですよ。調べればわかりますけどね。その人がおっしゃったのは——すみません、横にそれよった。このシェアハウスの話を知っておんさった。いつできるとですか。今、尖閣問題であれだけやっておるから簡単にいかないけれども、必ずこれはもうどこかに落ちつきますと。そしたら、約束しておってもいいですかね。すぐでも呼びたい。また来たいらしいですよ。そ

これは市長がシリコンバレーですか、あなたが思う以上に、どう思っているか知らんけれども、思う以上にやっぱり評判なんですよ。そして、先ほど言った三井業際がやってきたというだけでも全く違う。日本ユニシスが来るということがね。それだけの場所なんです。場所というのは人物ですよ。今までは地理的なことが場所でしたけれども、今は人ですもんね。高速回線を使えばどこでも、山の上でもできるわけですから、だから、市長のところなんです。市長の名声なんです。これはもうよいしょでも何でもありませんとおっしゃった。そのときおった次の社長もね、いや、俺たちも入られるやろうかという話です。それだけ起業家はもう動き出しているというのが現実ね。

だから、このシェアハウス、この前はつくるという話をされましたけど、本当につくる気があるのか、今どういう状態なのか、質問をしたいと思いますけれども、完成予定を実は聞かれた。つくるものとか、その後の経過はどのようなものであるのか、答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

中で議論していたんですけれども、なかなかやっぱり財源の手当てが難しいということなので、これはぜひ議会の後押しをちょっとお願いしたいと思っています。

一方で、先ほど三井の話が出てきましたけれども、民間活力をこれは導入したいと思っています。

ただ、一方で私もこの場でもうやりますと言いましたので、必ずやります。必ずやる。やると言ってやらなかったのが民主党、やると言ってやるというのが私です。樋渡です。ですので、それはやります。

それで、ちょっとあれなんですよ、今、図書館ですごくやっぱり注目が集まっていますので、4月以降、年間多分100万人を超す、今、年間24万人から26万人なんですよ。ずっと減っていますので、特に初年度は100万人を超す皆さんたちが図書館に多分殺到すると思います。そのときに、やっぱり起業家の方々もいらっしゃるんですよ。ですので、住むことを約束してもらって、もう10人とか15人になった時点でね、そこはつくと。一番公共がやってダメなのは、つくったのに来ない。今の蘭学館みたいなものですよ。ですので、つくった以上は必ず入っていただくということを担保にできれば、そこは私は絶対やる必要があるだろうと思っていますし、それともう1つ、ちょっとそれで恐縮なんですけど、雇用促進住宅、これについては市が買収の方向で今最終調整に入っています。雇用促進住宅、あれ中野ですよ。中野の雇用促進住宅、これ山口良広議員さんからも御質問賜りましたけれども、この住宅をできれば、図書館のできる前にシェアハウスみたいにできればいいなということ。だから、シェアハウスのもの、あるいは今入りたくても入れない方々がいらっしゃるんですよ。方々とかというのは、この市の裁量で今度決められますので、まずそこを過渡期的な措

置として行って、ここについては起業家が今移り住んできていますので、その人たちがそこに集まるというように、短期的、中期的にちょっと分けて考えていければいいなというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

起業家、言葉は一緒ですよ。フェイスブック、いろんなことで一緒ですけども、パソコン一つで大きな企業になるんですよ。昔は雇用人口500人とか1,000人とか言いよったんですけども、パソコン一つで何兆円の企業が来る時代なんですよ。だから、それをわざわざよそにとられる必要はない。場所は好みませんので、あとはその支援体制、市としての支援体制があるかどうかの違いなんですよ。やる気があったら絶対来ますよね。しかし、それもえらい今度はあれですよ、石橋をたたくごたるですよ。しかし、それはそれとして、やっぱりやると今言われたことが発信されると思いますので、ぜひ何人打ち切りでやったら早いんじゃないかと思っておりますけれども、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

多くの皆さんたちがユーストリームでごらんになっていきますので、本当にさっき申し上げたとおり、15人集まったらもうやります。もうやります。

ただし、これは議会の議決が必要ですので、うちの議会にはしごを外すという人は若干いますけれども、ぜひそこはお願いをしたいというふうに思っております。起業家を集めて、前も申し上げましたけど、島根県の海士町、海の武士の「士」と書いて海士町ですよ。あそこが、僕はテレビでしか見ていませんが、町営住宅を起業家の方々に低廉の価格で貸して、そこに起業家が集まって、ナマコが特産品だったですよ。でも、なかなかナマコが売れなかったと。町が融資をすることによってナマコの加工場をつくって、それを干し物として出すということで、非常にそこで雇用が生まれたと。その彼を慕って次々にまた人がやってきているという流れを武雄市でもつくりたい。ですので、海の海士町、陸の武雄でいきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長さん、今、はしごを外さるって言いんさったでしょう。

〔市長「はい」〕

はしごを頼っているんですか。（発言する者あり）頼っていなければ、外されても結構な

んですよ。

では、交通安全対策について質問してまいりたいと思います。

実は、これ大変なことだったんですけれども、この前、Z問題を言われた。これは21年3月定例議会で私もここに来て質問したんですね。北方は3年目になって、北方が一番大きく問題を抱えているのがここなんです。これは高速インターで買収されているところですよ。これが20年間できないという話を3月にしたんですね。その前に実は古賀誠先生にお会いをしておりました。ここで話をして、北方の悲願ですよ。なぜならば、これができなければ、川上から来たドライブインふちがみの前の道路もできないし、多久に行く道路、いろんな道路の中心、扇のかなめのようなところですので、北方は20年間泣いてきておる。そういう中で、苦勞に苦勞を重ねながら、市長の選挙のときに、久津具でどがんするとかと言われてね、私は、前、末藤議員さんと杉原議長さんが古賀誠さんにお会いされたのを知ったけど、とっさのあれで、古賀誠に頼りだけん、するくさいと言うたのが実現したんですね。実現する前の3月議会ですから、北方はこういう悩みを持っていますと一般質問をしていた。みんなこれ悩んでいるんですね。それを、このZのところですね。これ運搬道路で、昔、ここで石炭を運んでいた道路なんです。それをもらって、なけなしの材料できれいに道をつくった。だから、ここは直角に交わっていない。しかし、これをつくるときに、陳情するときに、この道路はどこに行くのか。北方は意思を持っていますよ、下にずっとね、考え方を。しかし、このときに、考え方を、きょうおんされんね、当時、松尾定部長さんが差し当たりここに出しますと、ここも改良しますと言われた。ここもなかなか改良しにくい。いろんな問題があったんですよ。何か裁判終わったですけどね。そう言いながらも、彼がつくってくれたことなんです。この道路をここにたぐということですね。このZ軸を言われてね、何人もの方が憤慨されたです。何ば武雄しよとやて。やっここができたとき、まだそげん話しよとやということですね。つまり、これは北方町のまちづくり推進協議会、当時、末次会長さんのとき、立派なのをつくってもらったんですね。ここに市営住宅、ここに何とか、いろいろ地図をつくっていただいた。これが今の場所ですよ。この丸の真ん中んところがZ軸になるということですね。北方町のみんなが、こういうふうに北方小学校の前を通ってと思っている。

問題は、その先の線路を越すか越さないかですと悩んでいたんですね。それは大町との関係があるからです。それを途中から脱線になるのはね、もってのほかだという話が来ました。余り文句を言ってもしよんないんですけれども、路線決定は、石橋部長がするわけじゃないんですよ。誰がする。建設費は市長がつくるわけじゃなかです。

こういう中で、私もぼけていますけれども、これは、当時の、大きくしてきました、古賀誠先生に私が相談しているところ。これは、実は市長から古賀誠先生を柳川で紹介してもらうまでには、国交省は北方町が反対していると言っていたんです。それは平成2年の大水害

で六角川の水が、そして、国道がつかったんですよ。だから、住民は反対していますよと国交省は言っていた。だから、先ほど言うように、3月定例会後に古賀先生から呼ばれて、それで、私も思わず立ち上がってね、先生、ぞうたんのごと、それは違うばいと言ひよる瞬間ですよ、これが。こういう苦勞をしながらね、本当にしてやっとな、これが国土交通省の課長さんです。実質力を持つとんさあ人ですね。この2人の方に、この白髪は誰かわかるでしょう。稲富県議ですね。それと、原口義己さんと一緒にここに行って、このときに20億円つけますと言われた。ただし、2年にわたりますよとおっしゃったんですね。そして民主党政権にかわったんですよ。その後、また議長と一緒にほかのところに陳情に行きましたけれども、その姿なんですね。こういう苦勞をしながらしかできないんですよ。

これは大町の町長さんですよ。私は武雄市会議員ばってんね、大町につながなければ江北に行かない。つまり、パナソニック、昔のサンヨーの裏のところは、六角川と線路と国道が一緒の中にあるとですね。一番難しいところなんですよ。それを陳情に行って、何とか今、前に進みつつある。あくまで住民の熱意をやりのごとく一本にしておかなければ大変なことになるのにね、残念な話でしたけどね。

まあまあ取り直しまして、これは34号線バイパスですね。北方のほうから見たところでございます。こっちは高速ですけれども、もう少し近くに寄ってみますと、こういうふうにだんだんできつつあるんですね。しかし、草が生えているということは予算がなかなかついていないということですよ。こう近くから見たところですね。しかし、これも本当に市長がああとき、古賀先生に会わせてくれたのが出発なんですね。

さらには、これ、今はもうないですよ。繁昌から黒尾を見たところですね。これが解体されて、現在はこういうすばらしい道路がおかげでできたんですね。ここ少し高いんですよ、この場所。これ行ったところが、いや、これもう手直ししますと。そうしなけりゃ、せっかくいい道路をつくって、1カ所悪ければ「九仞の功を一簣に欠く」ですよ。もったいない。直すということで、これはいいですね。

さらには、これは中野の道路です。これも非常に路肩が弱いとに苦勞していたんですけども、市長の力ではっきり言うて改良された。さらには、今しておられるのが、これ中野の公民館に行くところですね。これも石橋部長が頑張っているかしれませんが、用地買収はまだですかね。市長の姿勢ですもんね。みんなできなかつたんですよ。

これは、御存じのとおり、笹子トンネルのこの前ありました事故、犠牲者が9人。今、天井板をあちこち外し出したでしょう。今、急に悪くなったわけじゃないんですよ。ここが大事なところですけども、ここは、実はアンカーボルトが弱かったということですね。点検していなかった。5.3メートルあるそうですね。それで、2000年は検査しているんです、打音検査でも。高過ぎるため、その後していないんです。そんな話あるですか。これで大事故が起こった。大事故が起こったから天井を外しよるんですよ。

思い出すのが京都の亀岡市、ここで6月定例議会で話をしましたね。つまり、両側が65センチの溝があった。そこを埋めた。狭いので埋めたんですね。そしてなおかつ、7時から9時までには一方通行にした。これで万々歳と思うけど、違うんですね。ここに無免許の居眠り運転が飛び込んできたんですね。そして、ここにもしガードレールがあったら、こういうことはなかったろうという話ですね。後ろから突っ込んだんですね。通りにくかった道を広げた。道を広げたら、今度スピードを出したとが後ろから突っ込んだ。そして引率者を含む10人、新聞には最初2人と書いてあったのですが、結果的には3人の方が亡くなられたんですね。

これは北方支所、北方支所の横に、これは横断防止柵がついているんですね。ここずうっと通学路ですね。これが北方小学校のほうにずっと続いていますね、横断防止柵。子どもは飛び出すなと言っても飛び出しますね。飛び出さないようにつくってます。だから、この車の横を行けるんですね。

これは市長が頑張られたでしょうけれども、朝日小学校、朝日保育園の横のきれいになった道路ですね。つまり高橋武雄線なんです。大人が目線でここを見たとき、決して危険だと思いません。しかし、低学年は飛び出すこともあるんですね。北方の例は、やはり小学校の近くは狭いからというものもありますけどね、飛び出すことがあるんだということで、ここに横断防止柵、これは、この子だけかと思うか知りませんが、みんなそういう大人が目線になってほしい。それはね、安全面に対して、改良に対しては予算が少ない。さきの笹子トンネルと一緒にですよ。ここだけじゃないですよ。いっぱいあります。こういうところに市長さんね、この横断防止柵をつけてやるのが、大人目から見て、ああ、こういうことだなと思ってくれと。子どもがここに寝そべったりしますよね。だから、市長、このところに図書館とか、あるいは病院とか、いろんなものを見出してきて、そして子どもたちのためにしていく。そして大人が点検するときに、子どもたちの目線に変えていくという発想が必要だと思いますけれども、どのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この高橋武雄線ですね、これは吉川議員さんがもうずうっと6年半ぐらいかけておっしゃっていたことなので、これは私の話ではありません。おっしゃるとおり、ここは物すごく事故が多いところなんです。事故が多いところで、結構見通しがいいのでスピードが速い。しかも、それが南北、東西にありますので、これは予算をふやす必要があるだろうと。そのときに、やっぱり地元の皆さんたちに聞いて、私はこれをつけるとかつけないじゃなくて、必要だといったものについては予算の確保はきちんと新年度予算から行いたいと、このように思っております。

やっぱりこういう具体的な指摘が大事なんですよ。わけのわからん指摘じゃなくてね。蘭学館がどうしたこうしたじゃなくて、こういう指摘をぜひ議会でも承れば、市民の皆さんたちはきっと評価をしてくださると、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

あと何分かな、もうなかとかな。

これ安藤百福さんといって、日清食品の社長さんです。この方がスポーツを非常に推進されているということでここに上げておりましたけれども、もう時間なかとやろう。

それで市長ね、スポーツの効能についてはいろいろ御存じと思うんですね。だから、スポーツ精神の武雄市を、スポーツマンシップの武雄市ということをぜひつくり変えましょうよ。何かこう悪い言い方しますけれども、今のままだったら、何か温泉論議、温泉の中に入っておって、ああだこうだという感じですね。北方はそういうわけいかなかった。炭鉱町ですよ。ボタ、頭からボタをかぶれば死ぬんですよ。だから、非常に気が短く見えるかしれませんが、右、左はつきりします。

武雄の議員がそうとは言いませんよ。しかし、温泉の中に入っとなら、ああ、右でもいいね、左でもいいねじゃ、俺は余り向かん。

それはいいですけども、スポーツマンシップでつくり変えるということを、ぜひいろんなところを我慢したりなんして、一つの大きなね、例えば総合グラウンドというですか、それもつくるだけではだめですよ。やはりスポンサーが来るような施設をつくらにゃいかん。あとの維持管理で金がかかりますのでね。そういうことを踏まえて、やっぱり総合スポーツ施設をつくると。

これ三重県津市の吉田沙保里マリーナですよ。ここはスポーツマンシップでどんどん進めておりますので、ぜひとも武雄もそういう精神でいってほしい。

あと3分て書いちゃうばん。なかと、終わった。ということをお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で23番黒岩議員の質問を終了させていただきます。